

都市再生整備計画 事後評価シート

姫路城周辺地区

令和7年2月

兵庫県 姫路市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	兵庫県		市町村名		姫路市		地区名		姫路城周辺地区				面積	256.9ha	
交付期間	令和2年度～令和6年度		事後評価実施時期		令和6年度		交付対象事業費		1,722.9百万円		国費率	0.5			
1)事業の実施状況	当初計画に 位置づけ、 実施した事業	基幹事業	事業名 南駅前広場周辺まちなみ整備事業(無電柱化・美装化)、姫路駅周辺地区(都)内環状東線ほか6路線)、姫路公園(姫山公園)、内環状東線道路シェルター整備事業、姫路城夜間景観整備事業、 大手前通りエリア等魅力向上推進事業、大手前通り自動運転モビリティ社会実験												
		提案事業	事業効果分析調査												
				事業名				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	当初計画から 削除した 事業	基幹事業	姫路公園(城北地区)				計画期間内での移転補償が難しく、令和6年に計画変更して削除				影響なし				
			情報板整備事業				観光事業や新施設の整備に伴って情報板が設置されているため、 令和6年に計画変更して削除				影響なし				
		提案事業	トランジットモール完全化検討分析調査				沿道の立体駐車場の事業継続が決まったため、令和5年に計画変 更して削除				影響なし				
	新たに追加し た事業	基幹事業	姫路駅東側自由通路整備事業				移転交渉の進捗に伴い、令和3年に計画変更して追加				影響なし				
		提案事業	シェアサイクルスマートロック化事業				シェアサイクル利用者の利便性向上を図るため、令和5年に計画変 更して追加				影響なし				
			リノベーションまちづくり推進事業				新規出店等を考えるプレイヤーが見つかってきていることから、令 和3年に計画変更して追加				「歩行者・自転車通行量」を指標として追加				
	交付期間 の変更	当 初	令和2年度～令和6年度		交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響		—								
		変 更	なし												
2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標	1年以内の		効果発現要因		フォローアップ
				基準年度		目標年度		モニタリング	評価値	達成度	達成見込み		(総合所見)		
	指標1	姫路城周辺来訪者数 の増加	人/年	665,000	H29	727,000	R6	—	1,063,000	○	あり		姫山公園整備や姫路城夜間景観整備等 により、姫路城及び姫路城周辺地区の魅力と アクセス性が向上したことで、姫路城周辺 来訪者数の増加に繋がった。		令和7年8月
											なし				
	指標2	市民の満足度	ポイント	3.26	H30	3.42	R6	—	3.29	△	あり		道路・公園等の整備をソフト事業と組み合 わせて実施してきたが、目標とする数値ま での達成には至らなかった。ただし、従前値 に対してはやや満足度が高まっており、特 にまちの魅力に係る満足度は向上してい る。		令和8年9月
											なし	●			
	指標3	街なか(商店街)の活性化	店舗/年	11	H30	12	R6	—	36	○	あり		リノベーションまちづくり推進事業や大手前 通りエリア等魅力向上推進事業等の実施に より、街なか商店街の魅力が向上し、新規 出店店舗数の増加に繋がった。		令和7年5月
											なし				
	指標4	歩行者・自転車通行量 の増加	人/日	106,266	H31	110,000	R6	—	86,324	×	あり		新型コロナウィルスの感染流行の影響を大 きく受けて、コロナ禍の中で歩行者等の通 行量が半減したことが大きく影響し、目標 とする数値までの達成には至らなかったが、 近年は着実に回復傾向にある。		—
											なし	●			

3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標 達成度※1	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	その他の 数値指標1	中心市街地内居住者数	人	10,520	H30		—	11,139				姫路駅周辺での土地区画整理事業や市街地整備事業等の進展のほか、中心市街地内の道路や公園、歩行環境等の改善が図られたことにより、中心市街地の魅力と居住環境が向上し、居住者の増加に繋がった。	令和7年5月
その他の 数値指標2	キャスティ21コアゾーン 周辺における歩行者・ 自転車通行量	人/日	30,965	H31		—	34,642					姫路駅周辺での土地区画整理事業や市街地整備事業等の進展のほか、内環状東線道路シェルターや姫路駅東側自由通路などの整備が図られたことにより、キャスティ21コアゾーン周辺の歩行環境が大きく改善し、歩行者・自転車通行量の増加に繋がった。	—
4)定性的な効果 発現状況	・令和4年度「まちづくりアワード」において、姫路市ウォーカブル推進計画が構想・計画部門において国土交通大臣賞を受賞した。 ・令和3年2月大手前通りを全国で初めて歩行者利便増進道路(通称:ほこみち)に指定した。 ・社会実験実施により、事業に対する地域住民・団体等への理解促進が図られるとともに、地域住民と来街者の交流機会の増加に繋がっている。												
5)実施過程の評価		実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	-				都市再生整備計画に記載し、実施できた				-			
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	官民連携による 取組	・ウォーカブルな取組として、道路利活用社会実験「ぶらり城下町散歩@白鷺町」を実施し、その知見を活かし、2回目以降は民主体による開催を実現 ・公共空間利活用社会実験「Piolo Labo GARDEN」を実施し、社会実験終了後は常設でイス、ベンチ、植栽を設置し、現在も継続している。また別エリアで新たな社会実験「みちしば」を民主体で開始 ・民間事業者による更なる道路空間利活用を促すための姫路市ウォーカブル推進計画に基づく「ウォーカブル促進プログラム」を策定 ・ほこみちの新たな利便増進誘導区域の設定を目指し、社会実験を開始				都市再生整備計画に記載し、実施できた				● ウォーカブルなまちなかの形成に向け、社会実験で得られた知見を活用していく。			
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
持続的なまちづくり 体制の構築	大手前通り街づくり協議会				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ほこみちの占有者である大手前通り街づくり協議会に対し、引き続き後方支援する。				

様式2-2 地区の概要

姫路城周辺地区 都市構造再編集支援事業及びまちなかウォークابل推進事業成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：世界文化遺産・姫路城を擁する播磨の中核都市にふさわしい、賑わいと感動にあふれた姫路城周辺の再生 目標１ 歴史を感じ、魅力と感動にあふれる姫路城周辺地区のまちづくり 目標２ 安全・安心、快適な都市空間を創出し、人々が集い、賑わい、交流するまちづくり 目標３ 行政と市民、民間事業者等の連携・協働によるまちづくり	姫路城周辺来訪者数の増加	単位：人／年	665,000	H29	727,000	R6	1,063,000	R6(見込)
	市民の満足度	単位：ポイント	3.26	H30	3.42	R6	3.29	R6(見込)
	街なか(商店街)の活性化	単位：店舗／年	11	H30	12	R6	36	R6(見込)
	歩行者・自転車通行量の増加	単位：人／日	106,266	H31	110,000	R6	86,324	R6

都市構造再編集中支援事業



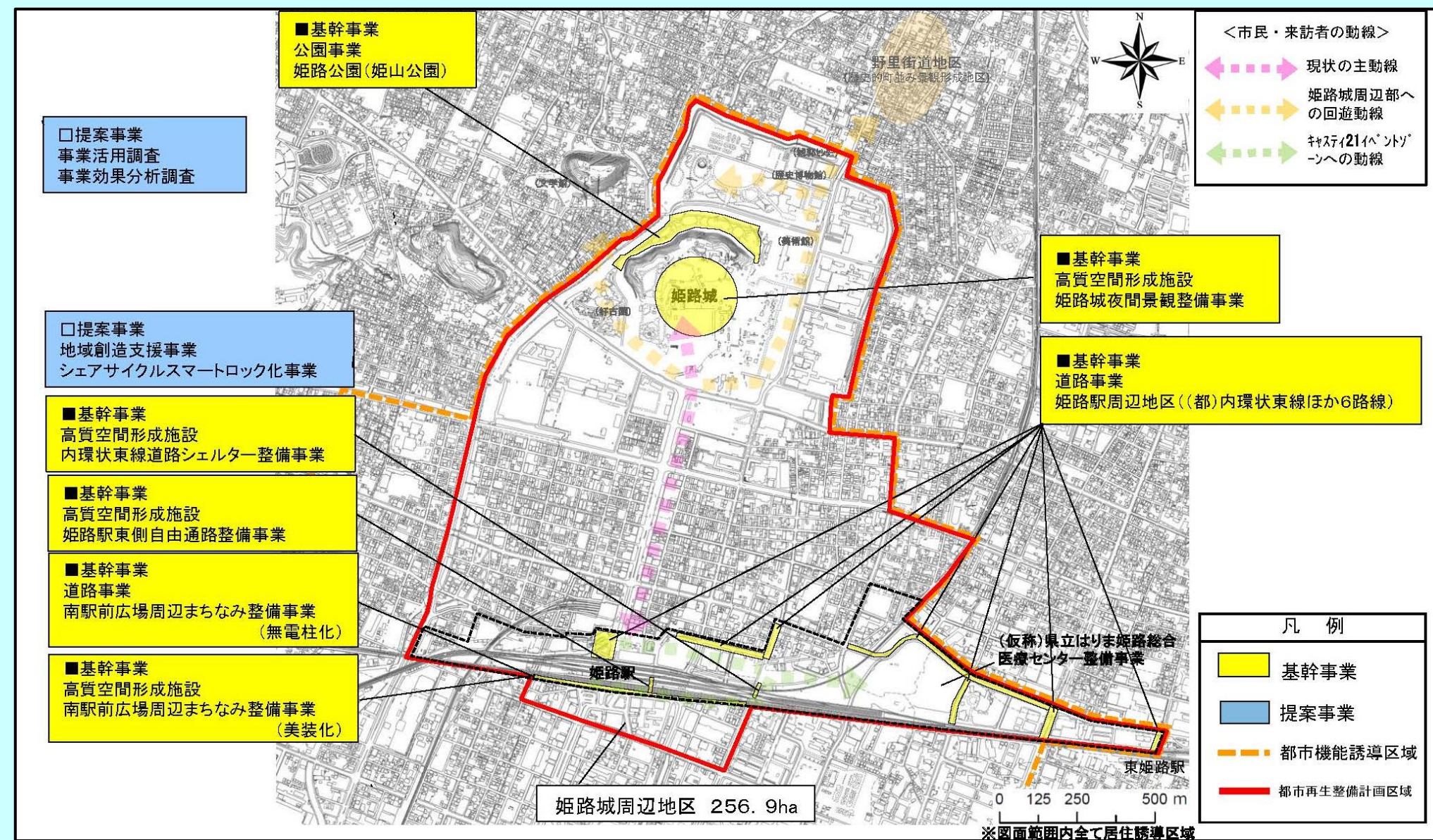
姫路公園(姫山公園)



姫路城夜間景觀整備事業



姫路駅東側自由通路整備事業



内環状東線道路
シェルター整備事業



姫路駅周辺道路整備事業



シェアサイクルスマートロック化事業

まちなかウォーカブル推進事業



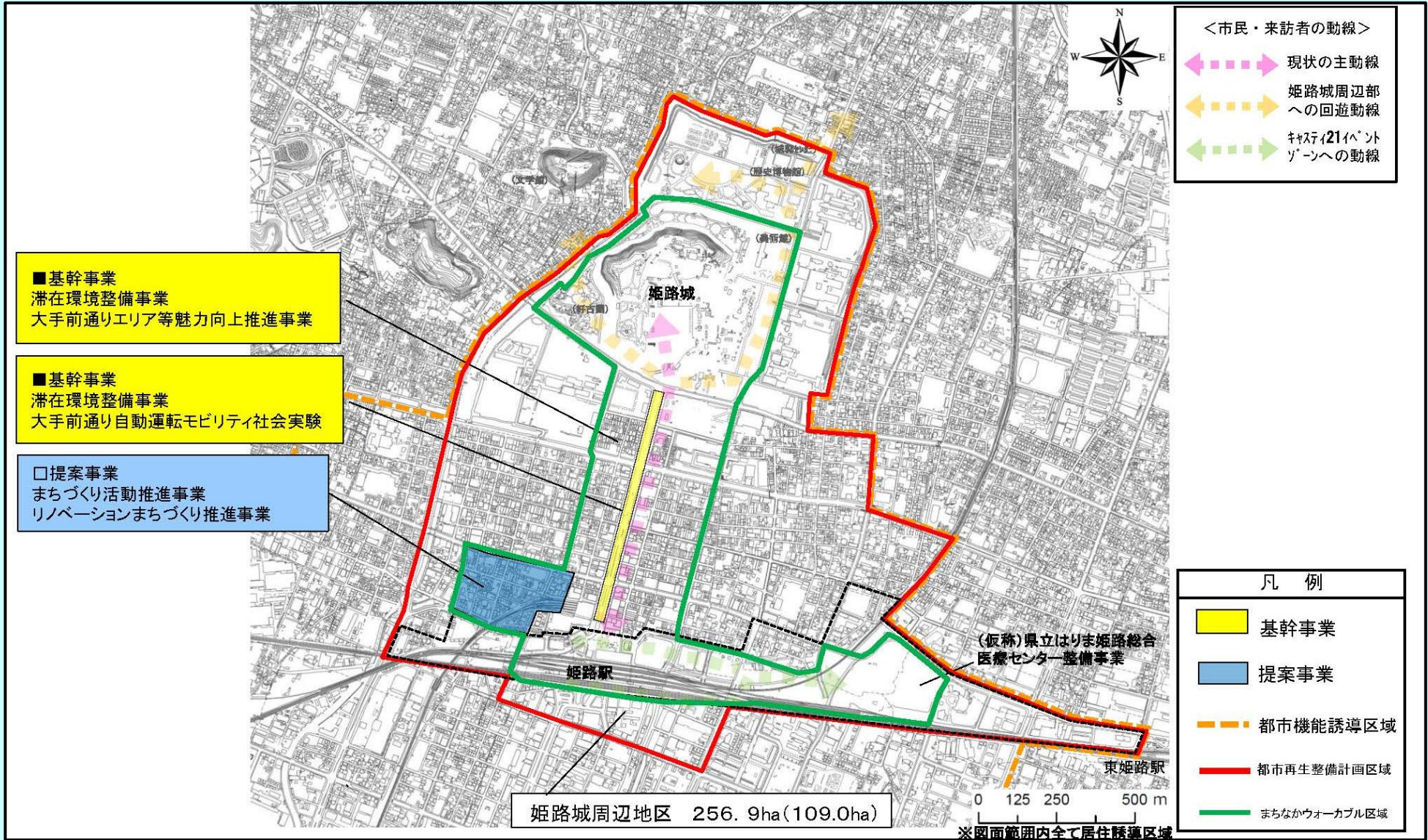
大手前通りエリア等
魅力向上推進事業



大手前通り
自動運転モビリティ社会実験



リノベーションまちづくり推進事業



まちの課題の変化

・姫路公園や姫路城夜間景観の整備のほか、姫路駅周辺を中心とした道路歩行空間整備の実施を通じて、新たな魅力のある賑わいの空間が創出された一方で、都心部における魅力と賑わいづくりに努めてきたことに対し、市民の満足度としては大きな変化がなく、実施事業のPR強化を図っていく必要がある。姫ちゃりについては、更なる利用者の増加をすすめるため、自転車の増車やポートの増設を行い、利便性の向上に努めていく必要がある。

・姫路駅東側自由通路や内環状東線道路シェルターなどの整備を通じて、姫路駅周辺を中心に安全、安心、快適な歩行空間の確保が進められた一方で、中心市街地における歩行者・自転車通行量がコロナ禍前の水準にも回復しておらず、街なかでの回遊を促す歩いて楽しいウォーカブルなまちづくりを推進していく必要がある。

・姫路駅前事業者の動向に応じて、姫路駅前トランジットモールの完全化に向けた整備方針及び手法を検討していく必要がある。

・姫路駅周辺及び大手前通りを中心とした魅力向上推進事業や自動運転モビリティ社会実験、リノベーションまちづくり推進事業の実施などを通じ、官民協働による都市空間や景観の形成に向けた動きが活発化し、賑わいと交流の創出や街なかの活性化に繋がっている。

今後のまちづくり
の方策
(改善策を含む)

・人々が集い、賑わい交流する空間の充実に取り組むとともに、増加するインバウンド需要への対応を図っていく必要がある。

・姫路駅周辺のみならず、姫路城周辺も含めて、安全・安心で高質な歩道・通路環境の充実展開に努めていく必要がある。

・官民一体となった賑わいある歩行空間の創出に取り組むなど、官民協働による都市空間や景観の形成に向けた事業の推進を図っていく。

・市民に対し、実施事業のPR強化を図っていくとともに、整備された施設や空間の利活用促進を市民との協働で進めていく必要がある。

・観光交流拠点や市民や観光客が利用する公共トイレ、歩行環境の充実を図っていく。

・姫路駅前事業者の動向に応じて、トランジットモールの完全化に向けた検討を行い、市民だけでなく来訪者にも安全・安心で快適な空間の創造を目指していく。